

多賀城発で多賀城着。ヒト・コト・モノを届けます

「tag」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。



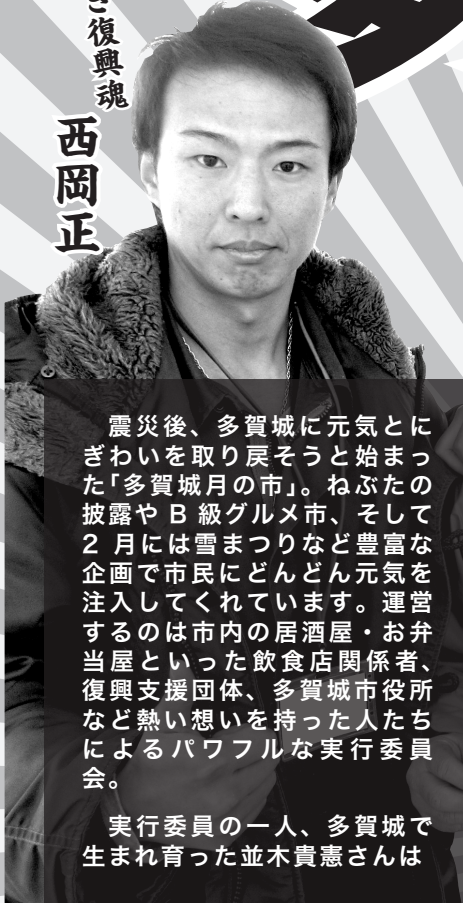
2013.2 vol.2
tag
たっぐ

多賀城の志士たちがタッグを組んだ! 多賀城の名物イベント

多賀城月の市

熱き復興魂

西岡正



震災後、多賀城に元気とにぎわいを取り戻そうと始まった「多賀城月の市」。ねぶたの披露やB級グルメ市、そして2月には雪まつりなど豊富な企画で市民にどんどん元気を注入してくれています。運営するのは市内の居酒屋・お弁当屋といった飲食店関係者、復興支援団体、多賀城市役所など熱い思いを持った人たちによるパワフルな実行委員会。

実行委員の一人、多賀城で生まれ育った並木貴憲さんは

幸せを運ぶお弁当屋さん

吉川俊宏



阿部富士男



多賀城一のお祭り男

からあげ親方

並木貴憲



こう話してくれました。「仙台や松島と比べ多賀城はどうしても素通りしてしまいがち。まずは人を呼びこめるおもしろいイベントを企画してたくさんの人に多賀城へ来てもらうことが必要です。その上で、だんだんと“悠久のまち 史都多賀城”を知ってもらいたいと思っています。少しまわり道になるかもしれませんが、おもしろいことをやっているまちとして売り出していくことが大切です。」

月の市は、これからの多賀城の新しい文化として定着させて少しずつ観光客を呼び込み、地域の産業や経済を活性化していくことを大きな目標として続けていくとのこと。みなさんもぜひ足を運んでみてください!!

多賀城月の市 ブログ: <http://ameblo.jp/tsukinoichi/>



ヒント from “たがさぼPress”

たがさぼのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

- **語り場をつくろう** 2013年1月26日(土)掲載
お互いの違いを尊重する、相手の立場になって考える。そんな文化をつくるためにみんなで語り合う場があります。
- **多賀城と世界をつなぐ「国際交流まつり」** 2013年1月17日(木)掲載
多賀城市国際交流協会による恒例の「国際交流まつり」。外国の文化にふれることができるこのイベントの様子を潜入レポート。
- **イベントのご参考に! 新聞記事のご紹介** 2013年1月10日(木)掲載
新聞は宝の山! たがさぼでスクラップしている新聞記事の中に気になる情報を発見。「仮設住宅漬物ナンバー1 決定戦」とは! ?

“たがさぼPress”とは?

たがさぼスタッフによるブログ。
興味が湧いたらたがさぼPressへ!

*ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

「復興いちから塾」

第5回目は地域での若者の活躍を応援する一般社団法人ワカツク 坂上英和さんを招き、若者と地域がつながる場の作り方などをお聞きします。何か活動を始めたい、活動に興味があるという方はぜひご参加ください。NPOの意味や特徴などが学べる講座もあります。

日時: 2013年3月26日(火) 午後7時~午後8時30分
会場: 多賀城市市民活動サポートセンター 101会議室
費用: 500円(資料代として・当日持参)
定員: 10名(先着順)
申込: 多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にて
問合せ: 022-368-7745

- 市民活動はじまりのはじまり -

多賀城災害
ボランティアネットワーク
後藤さんの場合

ボランティアが “きっかけは飲み会” つながるネットワーク

多賀城や七ヶ浜を中心に復興活動に取り組む多賀城災害ボランティアネットワーク。片づけや泥だし、仮設住宅の呼び鈴付け、多賀城月の市のサポートなど、いろいろなところで活躍しています。今回は、代表の後藤晃治さんに活動のお話をうかがいました。



— 後藤さんが活動をはじめたきっかけは何ですか？ —

私自身も多賀城に住んでおり、震災直後は身動きがとれない状態でした。友人から当時の多賀城市災害ボランティアセンターでボランティアを受け付けていることを聞いたのが活動のきっかけです。どうせ身動きがとれないのなら空いた時間を被災地のために使いたいと思いました。

— メンバーが集まったきっかけは何ですか？ —

実はボランティア活動をする中で知り合った人たちと飲みに行っていたことがきっかけです。せっかく知り合ったのでこうして飲みに行くだけでなく、ボランティア活動でも協力し合いたいと思いました。年齢層は20代から60代までさまざま。20人くらいはいます。サラリーマンや主婦の方が多いですね。

— 団体で活動することになり、個人の時と何か変わったことはありますか？ —

活動の幅が広がったと思います。持っている技術、情報なども人によってさまざまですからね。仮設住宅玄関の呼び鈴付けでは、メンバーの中に電気関係の仕事に就いている方がいたため、そのメンバーから教えてもらいながら作業することができました。また、会議の場などでもそれぞれの年齢や立場から意見が出るので視点が広がります。炊き出しやロープワークの演習も行っているのですが、それもメンバーで話し合う中で必要だという意見が出たために実現しました。お互いの経験や意見を共有しながら活動できるようになったことが大きな変化ですね。

— これからどんな活動をしていく予定ですか？ —

被災者や地域の方が震災や復興に関することで「困っている」「何かやりたい」と思った時にサポートしていきたいと思っています。また、炊き出し訓練などの防災に関する演習も行っているのでも何かあった時に多賀城で動ける団体として活動していきたいと思っています。



あ ちょっと気になるあのコトバ

新聞などでよく見る市民活動に関する言葉をサクッと解説

NPOって何？

「NPO」とは、Non-Profit-Organization の頭文字で、福祉や環境、まちづくりなど地域や社会の課題を解決するために市民が、自発的に活動している民間非営利団体のことをいいます。日本では、1995年に起きた阪神淡路大震災においてNPOが災害救援や被災者支援などで活躍したことから注目されるようになりました。国も活動を後押しするため、1998年に特定非営利活動促進法（NPO法）を定めました。この法律に基づいて法人化したNPOのみを「特定非営利活動法人（NPO法人）」と呼びます。

多賀城駅前イルミネーションなどを企画して地域を元気にするT・A・P多賀城や健康に関するさまざまなプログラムを実施する多賀城市民スポーツクラブなど、多賀城でもNPOが活躍しています。



「tag」には、多賀城（tagajo）の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ（価値）をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやっています。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>

メンバーの得意なことが活動に活かされているのですね！



NPO復興お役立ち情報

NPOによるサービス、相談窓口などをご紹介

NPO電話相談窓口



【障がい者のための相談電話】被災地障がい者センターみやぎ
障がい者自身が運営する相談窓口です。同じ障がい者の視点に立って生活をサポートします。

電話：022-746-8012 / FAX：022-738-9501
E-mail：teesaanangel@yahoo.co.jp
時間：午前10時～午後6時（月～金曜）
URL：<http://blog.canpan.info/tasuketto/>



【ママ・パパライン仙台】NPO法人せんだい杜の子ども劇場
子育ての悩みや不安な気持ちを抱えた方のための相談窓口です。専門の研修を受けたスタッフがあなたの気持ちを受け止めます。

電話：022-773-9140
時間：午前10時～午後4時（金曜）
URL：<http://www.ab.auone-net.jp/~senmori8/>